

農業市場学研究室案内2018年後期

2018/10/01

1 教員の講義担当

	氏名	講義名	対象学年
教授	野見山敏雄	生産学原論(分担) 生市場学(分担) 現代農業論(分担) 食農マケテイング論	1年(前期) 3年(前期) 3年(後期) 修士1年(前期)
助教	観山恵理子	農村経済学総合演習(分担) 農社調査(分担) 食料システム(分担) 現代農業論(分担) 食料関連産業特論(分担)	3年(前期) 3年(後期) 2年(後期) 3年(後期) 修士1年(前期)

2 教員および院生・学生の研究テーマ

教授	野見山敏雄	1,産地の市場対応と産地形成 2,産直流通の展開課題	
助教	観山恵理子	1,青果物の流通における価格形成 2,災害と地域農業の復興	
博士課程	佐藤 忠 恭	まちづくりと都市農業に関する研究	
修士課程 2年生	細川 貴 央 塩田 航 大 秀 仁 娜 土居 芳 晃 松島 耕 太	農産物の輸出に関する研究 地産地消に関する研究 日本における青果物物流に関する研究 日本酒の生産と流通に関する研究 中山間地域の農産物流通に関する研究	
1年生	豊倉 幹 人	日本における家畜排泄物由来肥料の流通と利用について	
研究生	蘭 愛 明	日本におけるコーヒー産業に関する研究	
4年生	河野 葵	フードロスに関する研究	
短期留学生	趙 豆 彭 榆 瀟	雲南民族大学SS&SV(10/1~11/8) 雲南民族大学SS&SV(10/1~11/8)	
3年生	安藤 夏 恋 岩 月 龍 平 川 崎 心 翠 関 口 翠	食育または外食企業について *3年生は問題関心事項 フードロスについて 芝の生産・流通または山口県美祢市の地域振興について 青果物流通について	

3 学部卒業生および大学院修了生の進路 (末尾の数字は卒業・修了年度)

学部卒業生	大学院修士課程修了生
<ul style="list-style-type: none"> ・(株)キューソー流通システム-18 ・本学大学院農学専攻-17,16,15,13×2 ・東京大学大学院農学生命科学研究科-17 ・(株)NTTコムウェア-17 ・(独)勤労者退職金共済機構-16 ・日本コントロールシステム(株)-16 ・(株)やまびこ-15 ・住商フーズ(株)-15 ・草津ナウリゾートホテル-15 ・経産省-14 ・三井化学アグロ(株)-14 ・日本林産振興機構(JETRO)-12 ・農林水産省-09 ・赤城乳業(株)-09 ・中国留学(中国人民大学)-08 	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)日立物流-18 ・(株)DYM-18 ・本学大学院連合農学研究科-18,14,09,03,... ・JA全農三重県本部-17 ・(株)ロピア-17 ・(株)セブン-イレブン・ジャパン ・東京都庁(行政)-16 ・日本甜菜製糖(株)-16 ・エスビー食品(株)-15 ・アリアケジャパン(株)-15 ・(株)イーサポートリンク-15 ・(株)システムエグゼ-15 ・(株)吉野家ホールディングス-15 ・日本生活協同組合連合会-14 ・(株)ロイヤリティーマーケティング-14

4 最近の卒論及び修論のテーマ(●=卒論,◇=修論)

- ・農業への新規参入者の支援策に関する研究-埼玉県宮代町の取り組みを事例として--17
- ・農産物直売所の課題と展望に関する研究-地産地消・地場流通の展開過程の観点から--17
- ・特殊肥料の生産と流通に関する研究-17
- ・狭山茶のブランド・マネジメントの課題とその克服に向けた考察-16
- ・新規用途米粉をめぐる現状と普及の意義-16
- ・20世紀から21世紀初頭における清酒製造業者の企業構造の変化に関する研究-16
- ・都市近郊農村における移住・定住推進策の検討-千葉県いすみ市を事例に--15
- ・行政との協働によるフードバンク活動について-NPOフードバンク山梨を事例にして--15
- ・米価低迷下における農協産直の現状および課題-JA庄内みどりと生活クラブ生協連合会--15
- ・製粉企業による国内産小麦使用拡大に向けての課題-15
- ・地産地消の学校給食における地場農産物供給コーディネータの役割と課題-14
- ◇国産米における価格帯別需給不均衡に関する一考察-17
- ◇有機農産物の第三者認証制度の日中比較-17
- ◇中国におけるCSAの展開過程-北京と成都の事例を中心として--17
- ◇組合員の主体性からみる生協産直の今後の展望-つながり作りに取り組む2生協の事例から--16
- ◇飼料用米給与豚肉の商品的性格の検討-16
- ◇系統農協組織を介した地域内連携と大豆産地の現状-15
- ◇新規就農者の現状と定着に向けた課題-千葉県を事例に--15
- ◇業務用キャベツにおける契約取引の実態と持続的取引に向けての課題-15
- ◇日本産水産物の輸出に関する研究-15